

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	田上幸志 森住俊子, 鎌田啓通
学力向上推進員	教諭(高等部教務主任)	増田良太
委員	指導教諭(企画総務課長) 教諭(学部主事) 教諭(進路指導主事) 教諭(教務課長) 教諭(教務主任)	中田聖子 (小)中村敏恵 (中)四宮美和子 (高)宮城利恵 佐藤和幸 山田千代 (小)徳重有紀 (中)久米清一 (高)増田良太

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(I 類型) 児 童 生 徒 の 状 況		
よさ	課題	
学習に対して意欲的であり, 自信が持てれば態度や発言が主体的になる。	肢体不自由による認知特性(視知覚, 抽象的思考のつまずき等)から基礎的学力に弱さが見られる。コミュニケーション面では受け身になることが多く, 主体的に話すことが少ない。また, 自分の気持ちをうまく相手に伝えることが苦手である。	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
【小学部】 困ったときや不快なときに, 周囲の人に言葉やカードなど個々の方法で自分から伝えることができる。	①国語や算数の問題に答える場面で, 担任に「わからない」ことを10秒以内に伝えることができる。 ②困ったときに, 自分から「手伝ってください」等と言葉で伝えることができる。 ③担任外の教員が足の装具を着けるときに, 不具合を言葉で伝えることができる。	評価
【中学部・高等部】 社会生活を送るうえで, 必要なことや自分の意思を相手に伝えることができる。	①作業的な学習や店や公共施設の利用に際して, チェックリストの依頼・質問に関する項目で, 「よくできた」「できた」の自己評価の割合を80%以上にする。 ②障がい者支援施設の見学の際, 職員に質問をすることができる。	

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>【小学部】 それぞれの児童の特性を踏まえ、関わる教員全員が共通理解を持ちながら、意欲的に伝えようとする雰囲気を作る。</p> <p>【中学部・高等部】 校外に出て、級友や教員以外の人と接し、必要なことや自分の意思を相手に伝える機会を多く設ける。</p> <p>* 中間期の見直し</p>	<p>①「わかりません」カードや装具の不具合を伝えるための選択肢カードを提示し使用していく。カードと一緒に言葉も添える。</p> <p>②日常生活の中でいろいろな困る場面を設定し、「手伝ってください」等頼む状況を1日1回作る。</p> <p>①作業的な学習では、毎時間、必要なことを伝えたり質問をしたりする場面を1回以上設ける。</p> <p>②年間10回以上、店や公共の施設に行く機会を持つ。校外に行く前の授業ではロールプレイ等でシミュレーションを1回以上行う。</p>	
達成状況を踏まえた改善事項		

(Ⅱ～Ⅳ類型) 児童生徒の状況		
女子	<p>学校生活の中で、持てる力を発揮しながら学習に取り組んでいる。興味のあることに対して、取り組むことができる。</p>	<p>課題</p> <p>重複障がいにより、外界を捉える力や表出する力が弱い。健康面や運動面での制約があり、生活経験が限られている。身体機能面での障がいのため表現方法が少なく、誰にでもわかるようなコミュニケーション手段の獲得が課題である。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
<p>児童生徒の実態に応じたコミュニケーション課題に取り組み、生活に活用できるコミュニケーション力を身に付ける。</p>		<p>コミュニケーション課題に関する個別の指導計画の目標で「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上とする。</p>
		評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標
<p>課題を達成するために教材教具の工夫や教員間の連携に取り組む。</p> <p>* 中間期の見直し</p>		<p>①全児童生徒についてケース会を実施する。</p> <p>②コミュニケーション指導や支援機器に関する研修又は情報提供を年3回以上行う。</p> <p>③学部会にて共通理解を図る機会を3回以上持つ。</p>
達成状況を踏まえた改善事項		